

道徳だより

令和6年6月6日(火)
校内研究通信 第1号
研究主任 高原 慶子

新年度が始まり、早2ヶ月が経ちました。木々の緑が色濃くなる時期となり、水泳の指導も始まります。子供たちは元気いっぱい、やる気いっぱいの学校生活を送っています。

富士見小学校では、学校経営計画にある「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める心と態度を身に付け実践する子」を目指して、道徳の授業においても、教材から様々な道徳的価値について考える実践をしています。

そこで各学年の授業の取り組みを学級・学年を超えて知ることができるよう今年度も「道徳だより」を定期的に発行していきます。「道徳だより」を通して、学校と家庭・地域の連携を図りながら、児童の道徳性を育んでいきたいと考えています。

今年度も引き続き講師の土屋信行先生をお呼びして、研修会を行いました。道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる、とあります。

- ・道徳的判断力…それぞれの場面において善悪を判断する能力
- ・道徳的心情…道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
- ・道徳の実践意欲…道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

この1年間、各学級で行われる道徳科の授業では、子供たちにこのような力がつくような授業づくりをしていきたいと教職員全員が考えています。



中学年



低学年



高学年